

小樽市立潮見台小学校 学力向上改善プラン

1 実施期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

2 児童の実態

① 全国学力・学習状況調査結果（教科）

- ・国語の問題で、精査・解釈（説明的な文章）については、正答率が50%に達していない。また無回答率も高かった。毎年の課題だった記述問題に関しては、問題の条件に対応する解答という点では課題が残るが、ほとんどの児童が解答のマスをしっかり埋めて書き入れていた。また、必要な情報や中心になる語や文を書き抜くこともできていた。
- ・算数問題においては、「除法の式と証の意味を理解」の正答率が低かった（45.1%）。また、図形領域の正答率も低かった。

② 標準学力調査（教科）

- ・国語の問題で、3・4年生は「指定された長さで文章を書く」ことが全国平均以下だった。5年生は、指定された長さはおおむね満足できるものの、「自分の考えを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書く」ことが課題である。また、いずれの学年も配当学年の漢字が課題に残った。

③ 児童アンケートより（学校評価）

- ・国語が「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた児童は76.2%、算数が「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童が76.2%だった。
- ・家庭学習の時間が（学年×10分+10分）取り組んでいると答えた児童は79.6%である。

④ 保護者アンケートより（学校評価）

- ・朝ご飯を食べるという子の割合は昨年度と変わらず約94%を維持できている。
- ・ゲーム機やスマホ、PCの動画を見る時間2時間以内は昨年全ての学年で達成できているものの、個別で見ると2時間を超えている児童も多い（27.6%）。ゲームをする平日の平均時間も同様に2時間近くであり、高学年になるほど時間が長くなる傾向である。休日も含めると平均4時間弱動画を見たり、ゲームをしたりしている。

3 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語>

学年	定着目標
1年	・国語を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
2年	・国語を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
3年	・国語を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%

4年	・国語を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
5年	・国語を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%
6年	・国語を好きと回答する児童80% ・学期末テスト(読む・漢字・言語) 80%

<算数>

学年	定着目標
1年	・算数を好きと回答する児童80% ・繰り上がり繰り下がり計算90%
2年	・算数を好きと回答する児童80% ・九九暗唱100%
3年	・算数を好きと回答する児童80% ・かけ算の筆算80% ・小数のたし算、ひき算80%
4年	・算数を好きと回答する児童80% ・小数、分数のたし算、ひき算ができる80%
5年	・算数を好きと回答する児童80% ・小数のかけ算とわり算、異分母分数のたし算、ひき算80%
6年	・算数を好きと回答する児童80% ・小数や分数のかけ算、わり算80%

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・毎日音読し音読カードを提出90% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 90% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
2年	・毎日音読し音読カードを提出90% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 80% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
3年	・毎日音読し音読カードを提出90% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 75% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
4年	・毎日音読し音読カードを提出80% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 75% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
5年	・毎日音読し音読カードを提出80% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 75% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%
6年	・毎日音読し音読カードを提出80% ・家庭学習時間 学年×10分+10分 75% ・テレビ等の視聴時間を2時間以内50%

4 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①基礎基本の確実な定着を図り、児童に「わかる」「できる」という自己肯定感を味わわせるため、授業改善を行う。
 - ②漢字、計算に加え、文章題などの学習を進めるため、朝、放課後の補充学習や宿題の取組を進める。
 - ③授業に臨む「学習のやくそく」の定着を目指した指導を発達段階に応じて進める。
 - ③子ども達に「書く力」を付けるために、以下の「文種」に計画的意識的に取り組ませる。
- ・ 1年生「経験したことを書く」→経験文
 - ・ 2年生「組み立てを考えて書く」→経験文
(組み立てを意識して)
 - ・ 3年生「材料を集めて報告する文章を書く」→報告文
 - ・ 4年生「自分の考えがはっきりと伝わるように書く」
→報告文(自分の考えを明確にして)
 - ・ 5年生「活動報告書を書く」「提案書を書く」→推薦文
 - ・ 6年生「意見文を書く」→意見文

(2) 確かな学力を育む授業改善の取組

- ①すべての授業で子どもたち同士の学び合いを取り入れた授業を構築する。
- ②並行読書や多読を促す言語活動を取り入れた国語の授業の研究を進める。
- ③指導方法工夫改善に伴うT・Tや習熟度別指導等を研修し、担当教諭との打ち合わせを日常化する。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①音読カードを活用した音読を継続する。
- ②放課後学習を積極的に活用し、子どもたちに学ぶ習慣を身に付けさせる。
- ③家庭学習を定着させるための家庭への啓発、宿題の内容や出し方の工夫を進める。
- ④「早寝・早起き・朝ご飯」の取組やテレビ等の視聴時間に関する家庭への啓発を随時行い、生活リズムチェックシートの活用を推進する。

(4) その他

- ①ゲストティーチャーによる授業など、生き生きとした学習が展開されるよう指導計画に位置づけ、実践する。
- ②地域の環境を生かした授業を積極的に取り入れる。

5 実施計画

年月日	計 画 内 容
R4年 4月	○R4全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査の自己採点 ○標準学力調査(第3.4.5)学年の実施
6月	○標準学力調査結果分析
7月	○学級経営計画の作成・交流 ○児童アンケートの実施 ○定着確認テスト、チャレンジテストの実施
8月	○経営反省と2学期の重点課題の交流 ○R4全国学力・学習状況調査結果分析
9月	○改善プランの修正 ○保護者への調査結果の説明
10月	○学力向上改善プランの評価・改善 ○研究会の開催
11月	○児童アンケート、保護者アンケート、自己評価の実施
12月	○チャレンジテストの実施
R5年 1月	○経営反省の実施
2月	○チャレンジテストの実施
3月	○経営反省の実施 ○新学力向上改善プランの作成

6 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①自己評価、児童アンケート等
- ②標準学力検査、チャレンジテスト、定着確認テスト等
- ③自己評価、学級経営交流・児童交流等

(2) 授業改善を図る校内研修の取組

- ①全学級の授業公開と外部からの助言、評価
- ②授業交流、研修による交流等
- ③自己評価、児童アンケート、研修による交流等

(3) 望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組

- ①音読カード
- ②保護者アンケート、児童アンケート等
- ③PTA役員会、学校評議員会等での意見交換等

(4) その他

- ①自己評価、教育課程委員会での意見交換